

西大寺食堂院 SE950 出土の動物遺存体

—第404次

1 はじめに

2006年度に実施した西大寺食堂院の発掘調査（平成第404次）で検出した井戸SE950は、平城京城でも非常に大型の井戸として知られる¹⁾。コンテナ約1,200箱に及ぶ井戸の埋土を水洗選別した結果、土器や瓦、木製品、木簡、植物種実等の多種多様な遺物とともに、数多くの動物遺存体も回収されたが未報告であった。そこで本稿は、井戸SE950から出土した動物遺存体について報告する。また、人骨もみつかったため、あわせて報告する。

2 出土遺構の概要

井戸SE950は、食堂院の台所である大炊殿の南東に位置する。井籠組で平面が方形を呈し、内法は一辺2.3m、遺構検出面からの深さは約2.8mである。井戸枠は横板材5段分が残存し、それより上部は抜き取られていたが、井戸の内部から井戸枠とみられる木材が出土しており、6段以上存在したとみられる。井戸底には直径3cm前後の円礫を敷き詰め、その上に木炭を敷く。

井戸内の埋土は、上からa～e層に分けて取り上げられた。最下層のe層は灰色の粘質土で、瓦を含むが比較的遺物が少ない。d層は多量の遺物を含み、木屑層とともに互層をなす。c、b、a層と徐々に埋土のしまりが良くなり、木質遺物の量が減り、土器の割合が増える。以上より、井戸は、廃絶後に食堂院で不要となったゴミを投棄することによって上部まで埋まったとみられる。出土した土器はa層から礫層まで接合関係があるが、概ねa・b各層間とc・d・e各層間で接合するものが多い。木簡の出土状況からもa～e層は一連の埋め戻しとみられている。埋土の遺物は奈良時代末を下限とし、木簡最新の年紀である延暦11年（792）からほどなく8世紀末に廃絶したと考えられる。

井戸からは箸・杓子等の食事具や皿・碗等の食器等、当時の寺院における食生活がうかがえる遺物が数多く出土した。また、メロンの仲間やトウガン、カキノキ、モモ等、食用植物を中心とした83分類群、10万点以上の植物種実がみつまっている²⁾。

3 同定・記載

同定は現生標本との比較によっておこない、比較標本には環境考古学研究室と京都大学総合博物館の所蔵標本を用いた³⁾。出土した動物遺存体は、同定資料数で計369点であった。以下、分類群ごとに記載する。

ウニ綱? b層から出土した。ウニ類の棘の可能性はあるが、基部を欠損しており、断定はできない。

マイワシ b層やc層等から歯骨、前鰓蓋骨、主鰓蓋骨、角骨、方骨が計7点出土した。

コイ科 d層から尾椎8点がまとまって出土した。

サケ科 e層から尾椎が1点出土した。

ボラ科 d層から腹椎が2点出土した。

カサゴ亜目 c層から腹椎が1点出土した。

アジ科 d層から左の角骨が1点出土した。

タイ科 d層から第1椎骨が1点出土した。

サバ属 d層等から腹椎や尾椎が1点ずつ出土した。腹椎は焼けて白色化していた。

無尾目 いわゆるカエル類である。d層から左側の腸骨、脛腓骨、距骨・踵骨が1点ずつ出土した。

ニホンスッポン 全身骨格や虫食い状の不規則な凹凸が発達した甲羅等、計141点を同定した（表27・図243）。ほかに指骨等も多数出土している。井戸下半部のd層やe層から出土しているが、d層とe層で骨が接合した。

2個体分の全身骨格や甲羅があり、同一個体に由来する甲羅や骨格部位がまとまって出土し、解体痕跡が認められない、という点から井戸下半部にスッポン2個体が全身骨格や甲羅が揃った交連状態で存在していたと考えられる。甲長（項骨板から第8肋骨板までの直線距離）は、1個体が約15cm、もう1個体が約17cmであった。

ヘビ亜目 d層から椎骨が1点出土した。

スズメ目? d層から左右の上腕骨が出土した。近位端最大幅が5mm程度と非常に小さい。

モグラ科 c層から左の上腕骨が1点出土した。

ニホンジカ b層から角の破片が2点出土した。ともに焼けて白色化していた。

ネズミ科 井戸下半部のd層とe層から計172点を同定した（表27・図244）。ほかにネズミ科の可能性のある肋骨等も出土している。同一個体に由来する全身の骨格部位がまとまって出土し、解体痕跡が認められない、と

いう点から、全身骨格が揃った交連状態のネズミが井戸下半部に数多く存在していたと考えられる。

ネズミ科と同定した出土資料のうち、歯については下位の分類群へ同定することが可能である⁴⁾。出土した大白歯は、すべて鈍頭歯型のネズミ亜科であった。ネズミ亜科のうち属以下へ同定できた上顎骨や下顎骨は、クマネズミ属、ドブネズミ、アカネズミであった。

上・下顎骨以外のネズミ科の骨格部位は、分類群の差が明瞭に認められないためにネズミ科と一括したが、ほとんどはクマネズミ属程度の大きさであった。

アカネズミ 上顎骨や下顎骨を3点同定した。上顎骨については、小型で、上顎M1やM2にposterostyleやposterior cingulumがあり、posterior cingulumは発達が悪くmetaconeとつながらない、頬骨弓基部からでる咬板が前方に突出する、という特徴をもつ。下顎骨については、小型で、下顎M1にmedial anteconidがあり、下顎M1やM2の頬側に結合した付加咬頭がある、下顎M3のentoconidは円柱状を呈する、という特徴をもつ。なお、種は特定できないものの、出土したネズミ科の中に、アカネズミ程度の小型の骨格も認められた。

クマネズミ属 下顎骨を13点同定した。大型で、下顎M1にmedial anteroconidがなく、下顎M1やM2の頬側に結合した付加咬頭がない、という特徴をもつ。歯が脱落したり、咬耗が進行して咬頭が観察できない大型のネズミ科下顎骨5点は、クマネズミ属?と記載した。

ドブネズミ 上顎骨を6点同定した。大型で、上顎M1やM2にposterostyleやposterior cingulumがない、上顎M1のlabial anteroconeは発達が悪くlingual anteroconeと明確に区別できない、切歯孔の後端が上顎M1よりも前方に位置する、という特徴をもつ。クマネズミ属にはドブネズミとクマネズミが含まれるが、同定できた種はドブネズミのみであった。

ヒ ト d層から右側の腓骨骨幹部が1点出土した(図245)。端部に浅い円形の窪みやU字形の浅い溝状の痕跡が集中して認められ、犬による咬み痕と考えられる。

4 考 察

8匹のネズミ 井戸下半から8匹分のネズミが出土した。全身骨格の揃った交連状態であったと考えられる。7匹は大型のクマネズミ属であるが、種まで同定できた

資料がすべてドブネズミであったため、これらのネズミはドブネズミと推測される。ドブネズミは、人間の生活環境近くに生息して台所や下水等、湿った場所を好み、植物以外に肉や魚もよく食べる雑食性の家ネズミである⁵⁾。食堂院には食堂のほかに食料貯蔵施設等も存在しており、ドブネズミの生息に適した環境であった。井戸の中へ偶発的に落ちたネズミの可能性も想定できるが、多くの個体が出土したことから、食堂院周辺で駆除されたネズミの可能性が高いと考えられる。京職から鼠を進上した木簡があり、平城京内に生息したネズミを駆除していたことが知られている⁶⁾。

食料残滓 コイ科、サケ科、ボラ科、マイワシ、アジ科、サバ属、カサゴ亜目といった魚類は、スッポンやネズミの出土状況とは異なって一部の骨格部位のみが出土しており、食料残滓の可能性が高い。種は特定できないが、魚の鱗も出土した。ほかにも、ウニ綱?や小型の鳥類(スズメ目?)等で一部の部位のみがみついている。

これまでの調査によって、井戸には食事具や食器、食物残滓といった食堂院で不要になったゴミが投棄されていたことがあきらかになっている。また、井戸から出土した木簡群は、食材の進上に関わる木簡、食材の保管に関わる木簡、食料ないし食材の支給に関わる木簡から構成されている。ただし、米や野菜のような植物質食料が記され、魚等の動物質食料は記されていない。

2匹のスッポン 井戸下半から2個体分がまとまって出土した。同じような事例は平城京左京五条二坊十六坪で認められる。井戸の下層でスッポン1個体がまとまって出土し、飼育していたか、埋葬した可能性が指摘された⁷⁾。食堂院の井戸からは斎串が出土しており、廃絶にともなう祭祀がおこなわれた可能性がある。出土状況からは井戸内でスッポンが生息していた可能性を排除できないが、覆屋と考えられる建物(SB951)が検出されており、井戸の水を清浄に保っていた様子がうかがえる。

スッポンの評価は、出土層位が井戸使用時の堆積層なのか、あるいは井戸埋め立ての堆積層なのかによって検討できるかもしれない。しかし、食堂院の井戸下半は含水率が高くしまりの緩い堆積土壌で、337kg(整理箱30箱分)の製塩土器⁸⁾等、大量の遺物が投棄されていた。d層とe層で骨が接合したように、井戸枠で囲まれた閉鎖的な空間に大量の遺物が投棄されたことによって攪乱や

再堆積が生じ、比重の小さい骨や甲羅が移動した可能性を想定できるため、厳密な検討は困難である。

犬の咬み痕が残る人骨片 井戸を埋め立てた土壌の中に、人骨片が含まれていた。井戸廃絶時の西大寺は、衰退していたわけではなく直前まで活発な寺院活動をおこなっていた⁹⁾。儀礼空間という側面をもつ食堂にはそぐわない資料であるが、犬による咬み痕が残されており、犬が持ち込んだ人骨片が食堂院周辺に存在していたと考えられる。

まとめ 魚類等の食料残滓は、井戸廃絶前後に食堂院周辺で消費されたものと考えられる。解体や廃絶にともなって様々な人びとが往来した可能性があり、犬が持ち込んだと思われる人骨片もみつかった。ただし、井戸SE950から出土した遺物は、食堂院という場を反映しており、当時の寺院における食生活がうかがえる一括性の高い資料群と評価されている。多くの家ネズミの出土は食堂院の性格に合致したものといえよう。『日本霊異記』下巻六縁に養生のために鰯（ボラの幼魚）を食べる僧侶の説話があるように、多様な魚類が寺院で消費された可能性も十分に考えられる。今後、西大寺食堂院から出土した遺物を再検討し、議論を深めていきたい。（山崎 健）

註

- 1) 奈文研『西大寺食堂院・右京北辺発掘調査報告』2007。
- 2) 奈文研『古代都城出土の植物種実』2015。
- 3) 標本調査にあたって、京都大学総合博物館の本川雅治氏のご配慮をいただいた。
- 4) ネズミ類における歯や骨の同定・記載は、以下の文献も参考にした。Kawamura, Y. Quaternary Rodent Faunas in the Japanese Islands (Part2). Memoirs of the Faculty of Science, Kyoto University. Series of geology and mineralogy 54 (1-2), 1989. 河村善也「日本産の第四紀齧歯類化石」『愛知教育大学研究報告（自然科学編）』40、1991。金子之史「日本産ネズミ科検索表」『日本の哺乳類』改訂2版、2008。
- 5) 矢部辰男『昔のねずみと今のねずみ』どうぶつ社、1988。矢部辰男「ドブネズミ・クマネズミ・ハツカネズミ」『日本動物大百科 哺乳類』平凡社、1996。矢部辰男『ネズミに襲われる都市』中公新書1423、中央公論社、1998。
- 6) 馬場基「平城京の鼠」『日本古代木簡論』吉川弘文館、2018。
- 7) 平山廉「平城京左京五条二坊十五・十六坪の井戸SE04出土のスッポン遺骸について」『平城京左京五条二坊十五・十六坪』奈良県立橿原考古学研究所、2006。
- 8) 神野恵「都城の製塩土器」『塩の生産・流通と官衙・集落』奈文研、2013。
- 9) 馬場基「平城京のさいごー西大寺食堂院調査成果を出発点としてー」『古代日本の支配と文化』奈良女子大学21世紀COEプログラム古代日本形成の特質解明の研究教育拠点、2008。

表27 ニホンスッポンおよびネズミ科の集計表

分類群	部位	b層	d層	e層	攪乱
スッポン	頭骨	-	-	1	-
	下顎骨	-	1	1	-
	椎骨	-	12	24	-
	肩甲骨+前烏口骨	-	-	2/2	-
	烏口骨	-	1/1	1/1	-
	上腕骨	-	1/1	1/1	-
	橈骨	-	1/0	1/1	0/1
	尺骨	-	1/0	1/2	-
	寛骨（坐骨）	-	1/1	1/1	-
	寛骨（恥骨）	-	1/2	1/0	-
	寛骨（腸骨）	-	0/1	2/1	-
	大腿骨	-	1/1	1/1	-
	脛骨	-	1/1	1/1	-
	腓骨	-	1/1	1/1	-
	項甲板	-	1	1	-
	第1肋甲板	-	1/1	1/1	-
	第2肋甲板	-	1/1	1/1	-
	第3肋甲板	-	0/1	2/1	-
	第4肋甲板	-	1/0	1/1	-
	第5肋甲板	-	2/1	0/1	-
	第6肋甲板	-	1/1	1/1	-
	第7肋甲板	-	1/1	1/1	-
	第8肋甲板	-	2/0	0/2	-
	椎骨板	-	4	4	1
	上腹骨板	-	0	2/2	-
	内腹骨板	-	-	1	-
	中腹骨板	-	2/1	0/0	-
	下腹骨板	-	1/1	1/1	-
	剣状腹骨板	-	2/1	1/1	-
ネズミ科	アカネズミ 上顎骨	-	0/0	0/1	-
	下顎骨	-	0/1	1/0	-
	クマネズミ属 下顎骨	-	0/0	7/4	-
	クマネズミ属? 下顎骨	-	1/2	0/2	-
	ドブネズミ 上顎骨	-	0/0	4/2	-
	上顎切歯	-	0/2	5/5	-
	下顎切歯	-	-	0/1	-
	前頭骨	-	1	2	-
	上後頭骨	-	-	1	-
	環椎	-	-	4	-
	軸椎	-	-	2	-
	頸椎	-	-	15	-
	胸椎	-	-	21	-
	腰椎	-	1	25	-
	仙骨	-	-	1	-
	仙椎	-	2	4	-
	尾椎	-	1	23	-
	肩甲骨	-	0/1	2/3	-
	上腕骨	-	-	3/4	-
	橈骨	-	-	2/1	-
	尺骨	-	-	2/4	-
	寛骨（完存）	-	1/1	3/1	-
	寛骨（恥骨）	-	-	1/1	-
	寛骨（腸骨）	-	-	3/3	-
	大腿骨	0/1	2/0	5/3	-
	脛骨	-	1/2	2/4	-



図243 井戸SE950出土のニホンスッポン

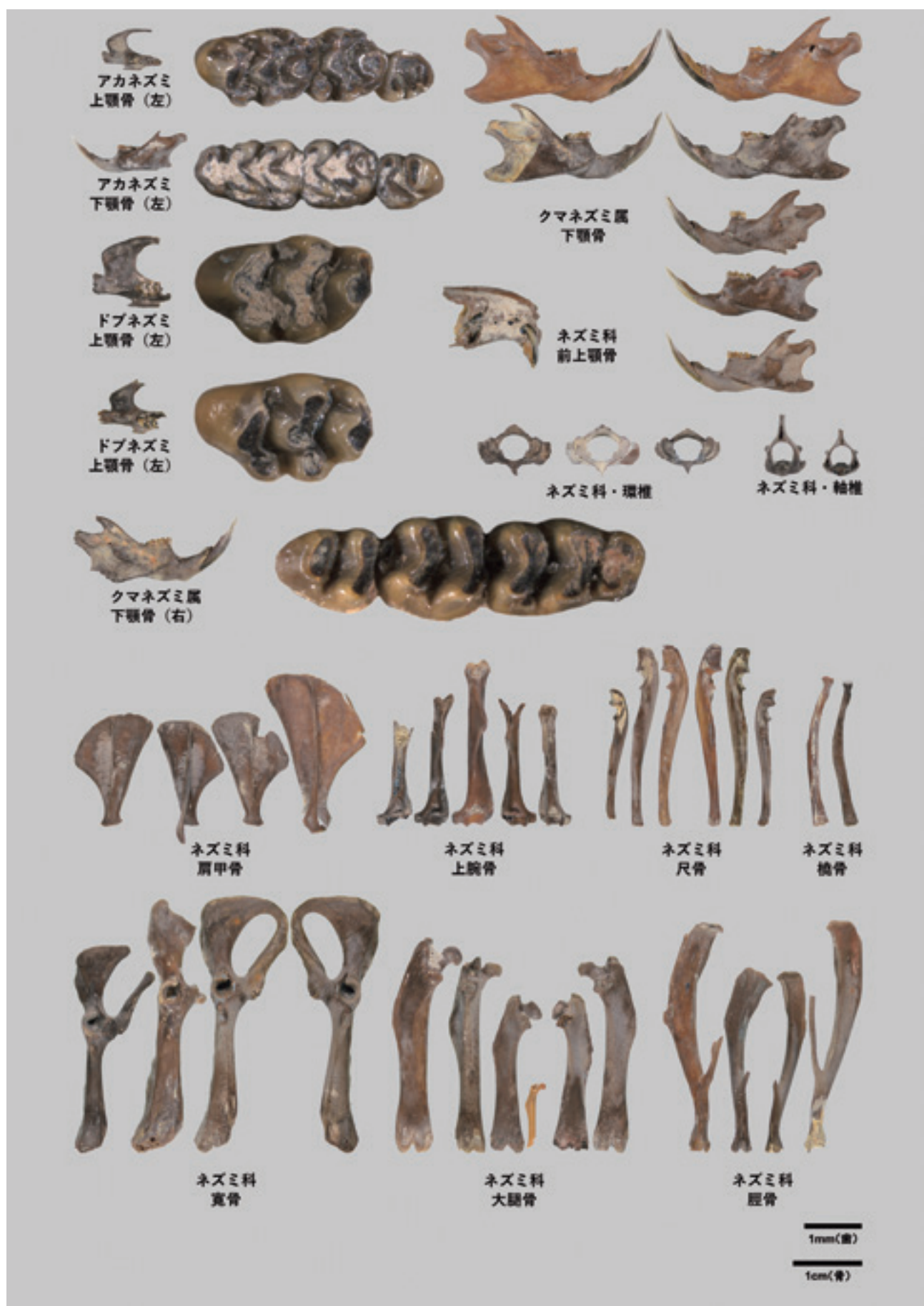


図244 井戸SE950出土のネズミ科

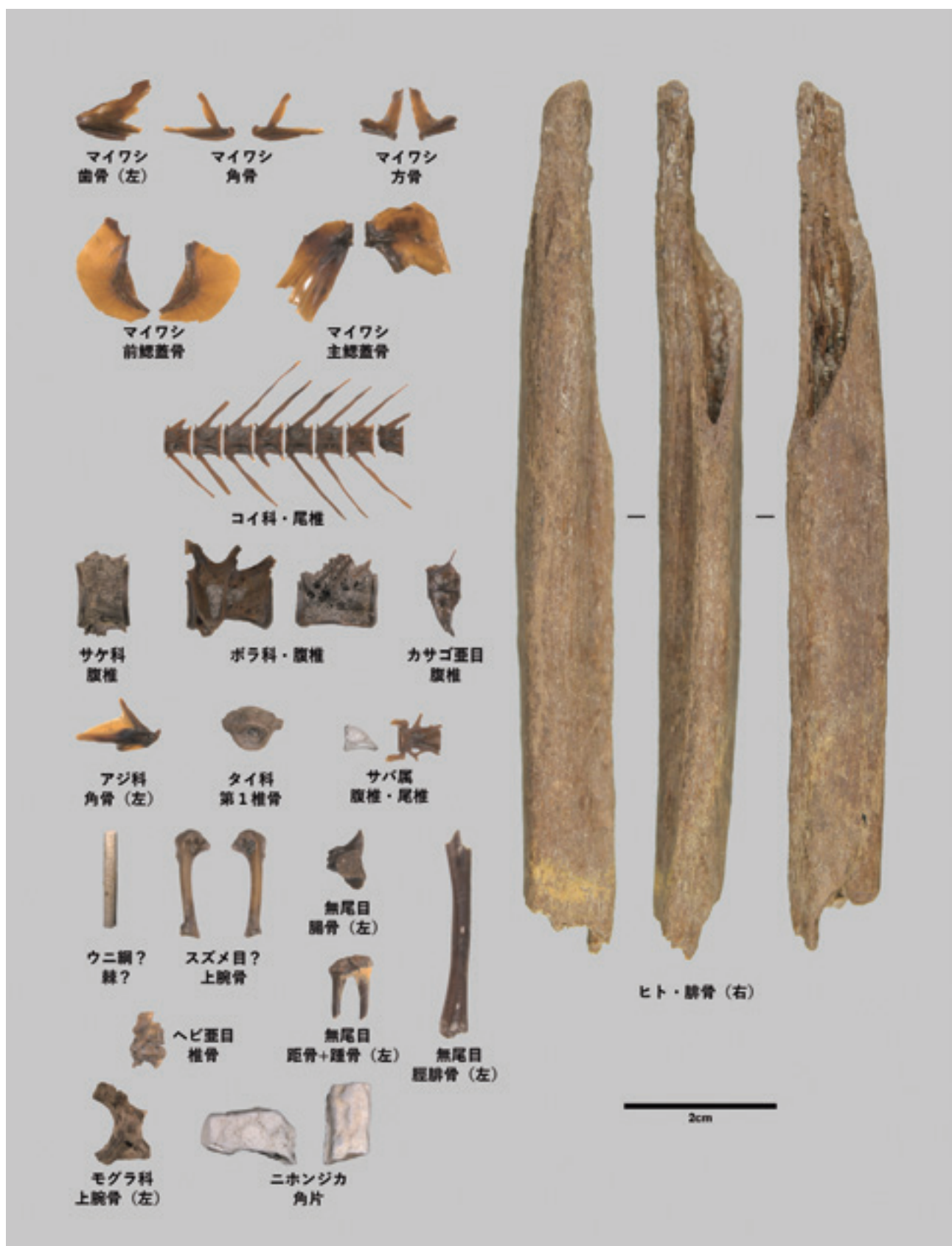


図245 井戸SE950出土の動物遺存体（ニホンスッポン・ネズミ科以外）と人骨